

満開の桜が、少し足踏みをしながら、私たちを待って咲いてくれているようなこの良き日に、ヴォーリズ学園近江兄弟社高等学校に入学されたみなさん、ご入学おめでとうございます。心から歓迎いたします。また、保護者のみなさま方には、大切なお子様の進路選択に際し、本校を選択していただきましたこと、心より感謝申し上げます。お子様のご入学、誠におめでとうございます。

来賓のみなさま方におかれましては、ご多用の中列席いただき感謝申し上げます。

春は別れと出会いの季節です。これまで長く馴染んだ環境から、新しい環境に移る時、心はいつも後から追いついてきます。ですから、大きな期待といくらかの不安の入り交ざった4月のスタートは、いきなりエンジン全開ではなく、ゆっくりと慣らし運転から始めていってください。この間の雨も、そんなことを私たちに教えてくれているのではないのでしょうか。また、みなさんが本校を選択していただいた経過は、一人ひとり異なるかと思えます。大切なことは、これまでの小さな自己決定の積み重ねの結果、382名が今日ここで出会えたということです。そして、3年後の卒業の日に、本校での学びと生活を通して、みなさん一人ひとりにとって、近江兄弟社高等学校が第一希望の学校になったと言えるようにしていくことです。私たち教職員は、そのためにみなさんの声を聴きながら一緒に考え応援していきます。

さて、この間のコロナ禍によって、私たちが大切にしてきた学校、家庭、地域における様々なコミュニティが寸断されてきました。小中学校時代、授業、行事、部活動などで、みなさんも大きな影響を受けて苦労してきたことと思えます。また、世界では紛争、戦争が続発し、平和な国際社会に向けた道のりの陰しさに直面しています。ここでは、コミュニティの再生と平和の創造が人類の喫緊の課題となっています。本校では、学園訓「地の塩・世の光」に基づく人間教育を大切にしています。これは、「いのちを大切にする教育」に収斂されます。それは、お互いにかけてあげのない存在である自分と他者を大切に、学校、家庭、地域、社会、世界の人々と、どのようにつながって課題解決のために生きるのか、探究していくことです。例えば、目の前で困っている友人ひとりを助けていくことは、世界平和への一歩ではないのでしょうか。その点では、本校には、「困っている人を助けたい、他者や社会とつながって生きる」といった姿勢や生き方を大切にしている先輩たちがあふれていますので、どうぞ安心して頼ってください。

ここでは、10年後どんな仕事に就いていきたいのかという問いの前に、どんな人

間になっていたのかという問いが大切になります。私が、昨年度までいた大学でゼミの学生、院生たちとそんな問いについて議論すると、「10年後は、自分の好きなことを通して、誰かを助けられたらいいな」と語る学生に結構多く出会いました。これは、とても大切な働き方、生き方ではないでしょうか。いろいろな人に支えられて、自分が学んで得た知見を、自分のためだけに使って生きるのはもったいないことです。

その一方で、日々の学校生活の中では、行事や部活動などを通して、目の前の賞や1勝にこだわるようなことも当然あります。しかし、大切なことはむしろそのさきにあるのではないのでしょうか。「結果にこだわりつつ出た結果にこだわらない」「私たちは、金賞よりも大事なものがあることに気がついた、それは青春や」。これは、かつて私が担任していた中学生から教えてもらったことです。また、スピードスケートのメダリストである小平奈緒さんが、引退会見の時にこんなことを話していました。「私がスケートを続けてきた目標はメダルでした。しかしその目的は、私の生き方と人生をリンクで表現することでした」と。だからライバルの韓国の選手に勝った時にも、相手選手へのいたわりと敬意をリンクで表現されていた姿があったのです。この言葉は、私の胸に深く沁みました。本校に入学されたみなさんが、授業、学級活動、行事、生徒会活動、部活動、地域活動、留学などの様々なフィールドで、その生き方と人生を思いっきり表現していただくとことを期待しています。

もう一点は、「なぜ勉強するのか」という問いについてです。その答えは、みなさん自身の中にあるということをお大前提にしながら、大学生、中高生のみなさんに問われた時に、私は次の2つのことを話してきました。

一つには、社会とつながって生きるとき、選択の幅が広がるということです。第一希望がすべてかなう人生はありませんが、学びを広げ深めることで、逆にどこに行っても通用するような幹の太い人間形成がなされていくということです。

二つには、自分のことと社会のことが、よく見えてくるようになるということです。自分自身の強みと課題、社会や世界の到達点と課題などがわかってきて、学んできた専門性を生かして課題解決のために自分は誰と一緒にどう働き、生きていくのか考えられるようになっていくということです。

新入生のみなさんが今持っておられるワクワク感を具体的な形にしていけるように、在校生の先輩たち、私たち教職員と一緒に力を合わせて、今日からやってみましょう。以上、歓迎の式辞とさせていただきます。